



インターネットで

図書館へ！！

本学ホームページが開設され、Y A H O O ! (<http://www.yahoo.co.jp>)にも1月28日に登録されました。その中には図書館のページ(<http://www.niigata-cn.ac.jp/libral-2.html>)があります。ここでは当館所蔵の雑誌目録を見ることができます。

♪♪♪♪♪ 図書館だより(第3号)の発行に寄せて～図書委員会～ ♪♪♪♪♪

★ 私は貸本屋の世代で本が大好きで、読めなくても本を集めている。次元が数段に異なるが待望した図書委員長に立候補し当選し活動し、今その月日が過ぎようとしている。本委員会は本学開学時の理念の「新潟県における看護情報の発信基地」を達成しなければならぬと、情熱の杉田館長を旗に委員一同、委員会の生命である、図書の選書、高利用度、設備の充実に全力投球しエネルギーを注いでいるうちに満期が来た。時間と発想の貧弱が悔やまれるが、今後のさらなる発展を次期委員会に期待したい。(委員長 村山ヒサエ)

★ この1年間、当学図書館が、より効果的に利用されるようになるためにはどうあるべきかの追求であった。まだ、目標の蔵書数に至っていないという条件はあるにしても、蔵書の管理と制限の少ない自由な貸し出しの境界が難しいと感じた。どちらも利用者のために考えられていることであるが、ウエートの置き方で大きく違ってくるように思う。まだ、今後も検討していかねばならない問題は多いが、当面の課題としては、地域に一定の図書館が備わっている現代においては、看護短大の図書館として、当学の特徴を見つけていくことだと考えている。(副委員長 長野 勝)

★ 図書館といっても様々だ。市立図書館、区立図書館、民間の図書館、大学図書館などである。私は、図書館が大好きでいろいろな種類の図書館を利用させていただいている。ただ、上越には少なく残念であった。これらは、設備、蔵書数・種類、いろいろ違うが、一番違うのは、そこに対応してくれる人達である。設備が悪くても、蔵書数・種類が少なくても、今の図書館は、検索し他から取り寄せることが可能だ。だから、優秀な図書館員とそれをバックアップする図書委員会のような組織があれば、極論だが、設備は乏しくても、利用者にとり、とてもよい図書館となる。ここの、図書館もそうなることを期待したい。(教員 水戸美津子)

★ 今年度の図書委員会は、紀要に掲載した本学図書館の利用者への質問紙調査や学外者のための図書館サービスに関する調査などの図書館利用状況に対するま

とめや、ホームページの作成、公衆衛生看護学校の図書整理などいろいろな事を行いました。私自身はどれだけ力になれたかわかりませんが、今回の図書館だよりの編集委員をさせていただいています。図書館だよりの発行を通して、図書館・図書委員会の動向が伝わればと思っています。(教員 水口陽子)

☆ 委員会活動の「学外者のための図書館サービス」をまとめながら、公立の看護短大の図書館が地域においてはたす役割を改めて認識しました。学生にとって使いやすい図書館はもちろんですが、社会の動きを見据えたもう一歩進んだサービスを心がけていきたいものです。私の今後の課題は、学生にひとつでも多くの役立つ図書を紹介できるように、自分自身が学習や研究に取り組むことだと思っています。(教員 山田正実)

★ 選書は難しい作業である。一体何を図書館の利用者は望んでいるのであろうか。本学の図書館は学習図書館である。そしてやはり研究図書館の機能も果たさなくてはならない。両者の調和をどのようにして達成すればよいのであろうか。学生に読んでほしい本と学生が読むべき本、学習に必須の本が一致するとは限らない。研究図書に至っては千差万別。蔵書構築をどのように進めるべきなのか。選書は大切な仕事だと思う。(教員 石沢信人)

★ 昨年4月初めて本学の図書館を見て大変驚きました。すばらしい環境・設備が整い、蔵書も医療・看護系の専門書が所狭しと並んでいます。このような中で勉強できる学生の皆さんが大変羨ましく思います。図書館は大学施設の一部ですが、学生や教職員の方が利用してもらって初めてそのすばらしさが発揮できます。実習やサークル活動等忙しいこととは思いますが、1日1回は図書館に顔を出してください。また図書館長をはじめ、図書委員長、副委員長、委員の先生方が一生懸命、図書館の充実を目指してこの1年間活動してきました。これからも本学の図書館が県内一、日本一と言われるように努力していきたいと思えます。(図書学生係 中島恒光)

大型図書希望調査(教員対象)の結果について

大型図書に対する意見、ご希望の書類の提出について、教員の皆様のご協力ありがとうございました。この件については、図書委員会の討議の中で、大型図書(「シリーズもの」「全書もの」「叢書もの」)を整備する時期になったのではないかと、まず希望がどの程度あるかについて伺った次第です。今回は2名から希望があり、内容は「臨床精神医学講座(全24巻)」「ブリタニカ国際大百科事典(日本語版)」です。希望理由として、学術的な内容であること、学習、研究の資料として価値があり、使いやすいこと、個人の研究費では整備しきれないことなどがあげられています。今回希望の提出のなかった教員の中にも、同じ理由で大型図書の整備に賛成する声も聞かれています。また、購入に反対の意見はありませんでした。今回は、希望の把握ということで、購入には至りませんでした。今後とも皆様方の要望にできるだけ答える方向で整備をしていく必要があると考えています。(教員 水口陽子)

☆☆ 図書館利用状況 ☆☆ ～貸出調査～

当館は95年9月から試験的に学外者サービスを行っています。学内外からの強い要望があつて開始されましたが、では2年が過ぎ、実際のところ学外者の利用はどうなっているのでしょうか。また学生や教員のみなさんと比較するとどうなのでしょう。

今回は貸出について調査しました。去年1年間の貸出利用者1人当たりの平均冊数を図1に示しました。1年間の平均は、学生1.8冊、教職員2.5冊、学外者2.2冊で、学生よりも学外者の方が多結果となりました。

月ごとに見ても、ほぼ学外者の方が多くなっています。次に貸出総冊数を図2に示しました。図1において

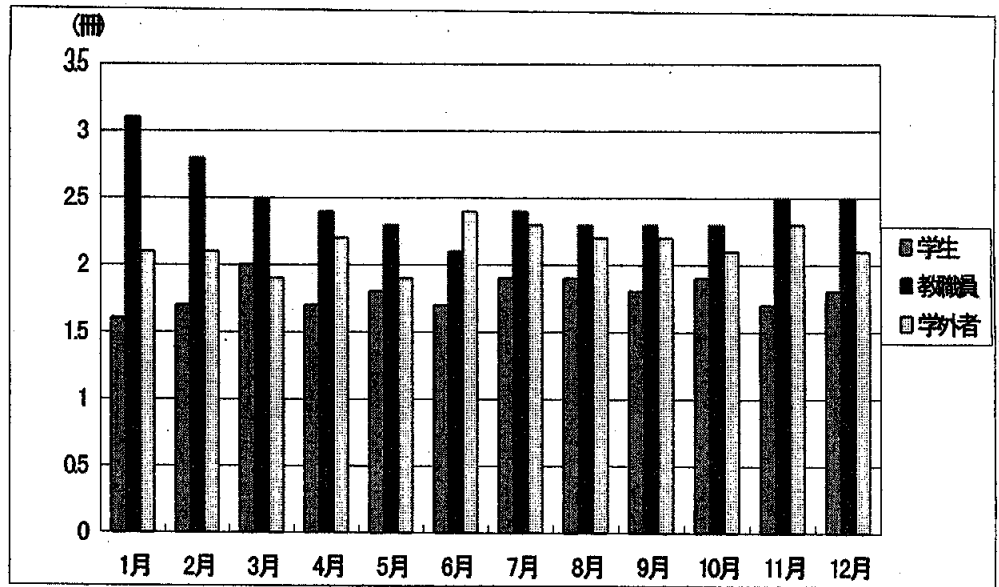


図1 貸出利用者一人当たりの平均冊数

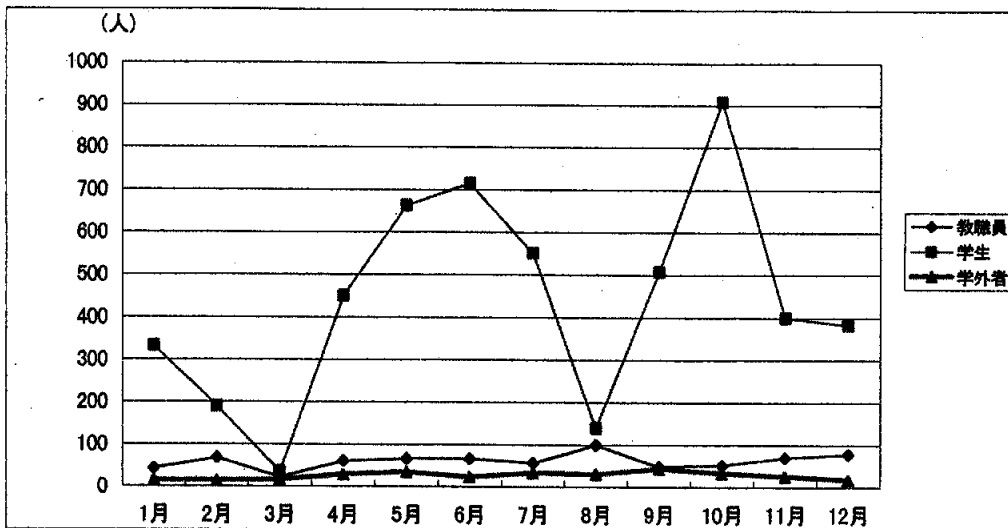


図2 貸出総冊数

学外者は6月が最も高い数値となっていますが、図2を見ると同じ月の貸出総冊数はそれほど多くはありません。これは、学外者が1回の貸出サービスをフルに活用していることを表していると思います。

それに比べ学生は1回には多く借りず、何度もこまめに借りに来る傾向にあるようです。(司書 吉原貴子)

bbbbbb 寄贈図書について bbbbbbb

昨年度末に閉校となった県公衆衛生看護学校の図書および雑誌を当館が引継ぎました。

まだ受入処理が済んではいませんが、図書に関しては、選書の結果、約800冊を当館で所蔵することになりました。一日も早く皆さんが利用できるよう現在、急ピッチで作業を進めています。

また選書から外れた図書については県立の看護専門学校や保健所へ3月中に寄贈する予定です。(司書)

『図書館事務のお手伝いをして2年たちました。その間、いろいろ新しい経験をさせてもらっています。大勢の学生さんに接する中で、ちょっとした会話や会話がきっかけで名前や顔を覚え、親しみが増していくことは楽しみの一つでした。そして、きまって毎日入館される熱心な学生さんが見えない時は具合でも悪いのだろうかとか気がかりになったりもしました。夜遅く閉館ぎりぎりまで勉強して行かれる人、職場から駆けつけて図書を借りる人、土曜の休日に一日こつこつ調べものをしている人など真剣で厳しい姿に頭が下がりました。日進月歩の世の中、新しい情報に接することができ、図書館は大いに刺激を受ける場となっています。』(嘱託員 富沢宏)

※ お知らせ・・・土曜開館の実施当初から一緒に仕事をしてきた、嘱託員の富沢さんが都合により3月で辞められることになりました。この2年間を振り返っての感想をいただきました。

図書館だより 第3号
発行日：1998年3月12日(木) 編集：図書委員会
発行：新潟県立看護短期大学図書館